

今週の富大生

Weekly TOMIDASEI

第88号

薬学部 薬学科 5年

沖縄県立宮古高等学校
(沖縄県)

研究の面白さを日々実感



薬の興味から、将来の夢に

子どもの頃、家族が薬の副作用に苦しむ姿を見て、薬はどうやって効くのか、より良い効果のものや副作用の出ないものはないのか、と漠然と薬に興味を持つようになりました。その後高校生になり、研究者という職業があることを知ると同時に、大学の先生方と直接関わるプログラムに参加する機会を得ました。そこで接した先生方は、人生や仕事を一番楽しんでいるように生き生きと研究に打ち込んでおり、その姿に強く惹かれました。この経験をきっかけに、それまで漠然としていた薬への興味や疑問が、薬の研究をする研究者になるという将来の夢へと変わりました。

研究者養成枠への挑戦と、富山での暮らし

地元の沖縄県の宮古島では、進学するほとんどの人が島を離れます。私自身も全国の国立大学の薬学部を探す中で、「薬の富山」という歴史や和漢薬を深く学べる環境、さらに受験の年から新設された「研究者養成枠」という総合型選抜の存在を知りました。幅広く薬の知識を身につけられる環境であり、研究者を志す思いと完全に一致した入試だと感じ、受験することを決めました。二次試験では、薬についてのプレゼンテーションが課されました。小人数の面接官を想像していたのですが、実際は大ホールの壇上で大勢の教授陣の前にプレゼンをする形式でした。最初は緊張したものの、その予想外の大舞台にかえて覚悟が決まり、自分の考えを堂々と伝えることができました。入学後は、同じ志を持つ仲間が存在が大きな支えになっています。また、地元・沖縄とは街路樹から気候まで全く異なる環境がとても新鮮で、初めて見た雪や、車で色々な場所へ出かけられる日常を心から楽しんでいます。

未知を解き明かす研究の面白さ

学部3年生の後期からは和漢医薬学総合研究所 未病分野（小泉桂一教授）の研究室に所属し、がん転移に関わる研究に取り組んでいます。生物学を中心としながらも、数学的な視点やアプローチが見事に結びつく瞬間があり、未知のメカニズムを解き明かしていくプロセスに深い面白さを感じています。この研究がいつか大きな成果へ結びつき、将来的に新しい薬や治療のヒントにつながれば嬉しいです。また、将来研究者として薬剤師としての視点も持ち合わせたいと考え、薬剤師資格の取得に向けた学びも並行して進めています。これまでの成果が実り、この夏には第30回日本がん分子標的治療学会学術集会でポスター賞、第35回日本がん転移学会学術集会・総会で若手奨励賞を受賞することができ、大きな自信となりました。



お世話になった先生方へ

高校時代の数学の先生から「答えを見る前に、納得がいくまで深く考え続けなさい」と言われたことが一番印象に残っており、今でも研究に向き合う上での思考の軸となっています。また高校時代に、学外のプログラムなどを通じて関わってくださった大学の先生方や、私の意欲や挑戦をいつでも否定せず温かく応援してくれた両親には、心から感謝しています。自分の「やりたい」を尊重し伸ばしてくれた環境があったからこそ、今の自分があると強く感じています。